

広報

もりの 中部の森林

Good Wood
Workers

詳しくは
こちら



写真
募集中!

令和4年12月23日

林業従事者写真コンテスト

撮影は安全第一で

私の森語り「地域連携の拠点を目指して」
ふるさと体験 木曾おもちゃ美術館 古畑 洋志

写真：「赤沢自然休養林の秋」(木曾署管内)

各地からの便り

- ・木育とふるさと体験を子どもたちへ！
～木曾おもちゃ美術館オープンに向けて～
- ・ボランティア活動 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、
秘蔵写真・今は昔の林業、国有林モニターのご紹介



林野庁中部森林管理局



2022/No.224



枝を折らないように大切に運ぶプロの仕事



見つけた逸材！


令和四年十一月十九日、長野県木曾郡木曾町に「木工・木育」×「ふるさと体験」×「木のおもちゃ」が三位一体となった「ふるさと体験木曾おもちゃ美術館」がオープンします。

築九十年以上の旧小学校の校舎、体育館、管理棟の三棟を利用し、木のおもちゃの良さや楽しさを伝えるだけでなく、蕎麦打ちなどの郷土体験、はたおり機織などの工芸体験を通じ、木曾の伝統文化に触れる体験が提供される予定です。

メイン会場となる「おもちゃのあそびば」にはシンボルツリーとして枝付きの丸太を用い、一階と二階を吹き抜ける構造とし、周りにラセン階段を施す計画となっており、地域材で建てる構想が検討されました。しかし、長尺の枝付き丸太については、一

木育とふるさと体験を
子どもたちへ！

木曾おもちゃ美術館
 オープンに向けて



般に流通量が少なく入手が困難なため、国有林から出材できないかと木曾町役場から当署に相談がありました。

長さ六尺、末口径四〇センチ、枝が四方に出ている枝長一尺という木材です。

早速、天然木曾ヒノキの出材箇所では何本か希望にかなうと思われる木材を出材しましたが、なかなか四方に枝が均等に張り、見た目の良い木は見つかりませんでした。

あてはまる木が無く、このままでは要望に応えられないと思われる中、ヘリコプター集材の支障となる天然木曾ヒノキがあるとの情報が入り、確認したところ探していた木材と一致したため、枝が折れないよう伐採作業を行っていただき、さらには運材、運搬も丁寧に行っていました。

十月初旬、販売された枝付き丸太は、工場に運ばれ、即皮むきが行われました。

どのようなモニメントとなったのかは次号で紹介いたします。



慎重に荷下ろししないと！



**ドコモCS長野支店による
ボランティア活動**

【北信森林管理署】

九月九日、長野市の戸隠山国有

林内にある戸隠森林植物園及び周辺地域において、株式会社ドコモCS長野支店によるボランティア活動が実施されました。

当日は、約二十名の社員の方々が、社会貢献活動の取組の一環として、国有林の環境保全に向けた取組に寄与することを目的に、ゴミ拾いや外来植物の除去、木道の清掃等を行っていただきました。

あいにくの空模様で、時折雨が降る中、自社のロゴが入ったビブスと雨具を身にまとい、同行した当署職員から除去の対象である外来植物の「セイヨウタンポポ」と「ハルザキヤマガラシ」の特徴について説明を受けながら、園内の各歩道や県道沿いの外来植物除去作業、落ちているゴミの片付け、ホウキを使つての木道の掃き出し作業など、一生懸命に取り組んでいただきました。

作業終了後、ドコモCS長野支



笑顔で記念撮影

店の支店長より、これからも戸隠森林植物園での社会貢献活動に参加していきたい旨のお言葉をいただき、落ち葉ひとつ落ちていないほどきれいになった木道や、ゴミ袋いっぱいになった外来植物を目にした社員の皆様からは、雨の中、怪我もなく無事にボランティア作業をやり遂げた達成感と充実感がにじみ出ていました。



東信木材センターでカラマツ材について学ぶ大学院生たち

六者協定に基づく大学院生を 対象としたフィールド実習

【技術普及課】

九月十四日、大学院生十七名を対象に、北佐久郡御代田町の浅間山国有林にてフィールド学習を実施しました。

これは、平成二十八年度に、筑波・山梨・信州・静岡の四大学と関東森林管理局・中部森林管理局を併せた六者間で締結した「山岳科学の発展に向けた連携協定」に基づいて、毎年協力している取組です。

参加した学生は、山岳科学に関連する教育、環境、都市計画、植生や昆虫など、それぞれ幅広い分野の研究を行っていますが、林業に関する実習は初めてのことでした。

そこでまず、来春にカラマツエリートツリー展示林を設定する予定の「清万採種園」を案内し、長野県のカラマツ林業の発展には種子の安定供給、エリートツリーのよきな育種技術の導入が必要であることを学んでいただきました。

その後、カラマツ造林地に移動し、下刈り回数削減による造林費用の抑制、伐造一貫作業などの林業の黒字化に向けた取組紹介や、「くくりワナ」の実演を行いました。防鹿柵による造林初期費用の増大などにも説明が及ぶと、鳥獣被害に関心を持った学生たちから質問が飛び交いました。

また、東信木材センターの見学では、初めて見る山積みのカラマツ丸太や自動選木機に、誰もが興味津々で担当の方の説明を熱心に聞いていました。その中には、「エリートツリーは成長が早いと年輪幅が広くなり、材はねじれやすいのではないか」「都市計画では十年先や数十年先を見据えているが、林業も同様なのか」など、研究者らしい着眼点からの質問もみられました。

本協定を通して、林業を専門としない学生にも、林業や木材産業の世界を学ぶ機会が提供できており、森林・林業への関心を高めて、就業機会の促進にもつながるよう、今後も継続して取り組んでまいります。

「秋の森マルシェ」に参加

【南信森林管理署】

十月一日、伊那市鳩吹公園において開催された「秋の森マルシェ」に参加しました。

「秋の森マルシェ」は、伊那市が森林資源と住民の暮らしを結び、市の発展につなげる「伊那市五十年の森ビジョン」の官民共同企画応援組織である「ミドリナ委員会」主催のイベントで、二十四の林業、建築業、木工事業者等が参加し、工作教室やワークショップ、各種販売などが行われ、気持ちのよい秋晴れの中、多くの家族連れで賑わいました。

当署は、若手職員を中心に、松ぼっくりをデコレーションするツリー作り、木を削って完成させるオリジナルの箸づくり、コースターに電気ペンで文字や絵を描くウッドバーニングを出店し、十時のオープンから十五時の終了まで、絶え間なく親子連れが訪れ、子どもたちが楽しそうに工作していました。



また、会場内では、伐採、製材、建築などの木材関連業界の連携を深める「森のマッチング 데이」も同時開催され、当署の署長から国有林の取組として、プレミアムカラマツやシステム販売を紹介しました。

久しぶりのイベントでしたが、職員が自分の特技を活かして、お互いに協力しながら森の恵み、木の魅力などを伝えることができました。

これからも、関係者と連携し、地域の森林・林業の発展に寄与できればと考えています。



参加したすべての人が楽しめる「秋の森マルシェ」

産業用ドローンによる苗木運搬を
目玉とした現地検討会を開催

【木曾森林管理署】

十月四日、上松町の小川入国有林において、木曾郡内の自治体や事業者の関係者十五名、職員十名が参加し、生産性向上プログラム現地検討会を開催しました。

当署発注の伐採・造林一貫作業の事業地（受注者／木曾協和産業株式会社）における皆伐作業の生産性向上について、結果や課題を紹介するとともに、産業用ドローンによる苗木運搬について、その効果や課題を検討しました。

当日は、受注者のオペレーターの操縦により、林道上の平地を離れたドローンが、一度に五十本のコンテナ苗（重さ約七・五キロ）を軽々と吊り上げ、約百メートル先の山の上まで運搬する様子を見学し、作業の効率性や安全性について確認しました。

また、ドローンは、苗木に限らず、現場で使用する道具やお弁当、飲み物など、航空法の制限の中で様々なものの運搬に活用できるこ



とも紹介されました。

これまで苗木は人力によって現地まで運ばれてきましたが、山を何度も上り下りする大変な作業です。また、急峻な地形の多い木曾谷では、ワイヤー架線による集材が一般的で、架線を設置するために必要なリードロープの運搬も人力で行っているため、労働負荷の軽減につながるドローンの活用は、木曾谷の林業においても、ますます重宝されることでしょう。

参加者からは、ドローンのコストや安全性について多くの質問があり、関心の高さが窺えました。今回の検討会が、先進的な機械を導入する一助になれば幸いです。



コンテナ苗を運搬するドローン

国有林の作業現場等

視察交流会



〔名古屋事務所・愛知森林管理事務所〕

十月六日、川上・川下の相互理解を深めることを目的に、名古屋木材組合加盟の業界関係者、建築士、地元市町村職員二十七名が愛知県北設楽郡設楽町の段戸国有林の素材生産事業地と昭典木材製材工場を視察し、意見交換を行いました。

午前中に見学した素材生産事業地では、人工林ヒノキ（林齢四十二年生と百二年生）の間伐が行われており、伐倒、集材、造材、運材の作業の流れについて、愛知所職員より説明した後、プロセッサでの造材作業を見学していただきました。

また、土場に集積された末口直径五〇センチ以上の百三年生のヒノキを間近でご覧いただき、高齢級木材の付加価値を高めるため、検討会の実施や細心の注意を払った伐倒、造材、運搬をしていることをご理解いただき、参加者の方から林業経営についてのご質問をい

いただきました。

午後は、新城市にある昭典木材株式会社製材工場を見学し、峰野社長より製品ができあがるまでの木材の皮むき、製材、乾燥、製品管理に沿って施設をご案内いただき、乾燥室で乾燥させることで背割りを行わなくてもよくなる反面、色合いが失われるなどの説明を受けました。

見学中も峰野社長に個別で質問をしている参加者の姿が多く見受けられるなど、みなさん熱心に見学されていました。今後とも川上と川下をつなぐ交流会を実施してまいります。



製材工場を視察する参加者

名古屋林政記者クラブ

国有林視察



〔名古屋事務所〕

十月十三日から十四日の二日間、名古屋に所在する林政記者（名古屋林政記者クラブ三社・林経新聞、日刊木材新聞、ウッドミック）に、国有林の取組などを視察していただきました。

初日は、長野県上水内郡信濃町にある北信森林管理署管内の霊仙寺山国有林において、北信署長から管内の概況や主な業務についての説明を受けた後、黒姫森林官などの案内で、立木販売事業地での機械による造材と運材作業、造林請負事業地での機械地拵やコンテナ苗の植付を視察しました。



木材の流通などについて質問



森林技術・支援センターを視察

翌日は、岐阜県下呂市に移動し、九月末に落成式を終えたばかりの森林技術・支援センターの新庁舎と、住友林業株式会社岐阜樹木育苗センターを視察しました。

岐阜樹木育苗センターでは、現在、二つのハウスでコンテナ苗を生産しており、育苗センターの職員の方から、施設内部の構造、充実種子選別機、発芽室、半自動式播種機、育苗作業等の設備について説明を受けました。

林政記者の方々には、各取組や施設を熱心に視察していただき、国有林への理解を深めていただきました。

シリーズ

森林官からの便り

【東信森林管理署】

真田森林事務所

森林官

桑原

優太

真田森林事務所は、長野県上田市真田町に所在し、上田市北部の約六、八七〇ヘクタルの国有林を管理しています。管内の国有林のうち約七五割を地元自治会と共用林野契約を結んでおり、地域との関わりが強い事務所です。

管内には日本森林浴の森百選の一つ、角間溪谷(角間山国有林)があります。角間溪谷は烏帽子岳山麓の四キロに及ぶ大溪谷で、数百メートルに及ぶ切り立った火山岩の断崖絶壁や岸壁の洞窟に創建された「岩屋観音堂」、「鬼ヶ城」や「獅子の牢」といった奇岩怪石が数多く存在しています。

秋には溪谷全体が赤く染まり、信州有数の紅葉の名所となっています。

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。



平安時代に創建された岩屋観音堂

主な業務は造林事業、木材生産事業の監督業務ですが、今年度は千曲川上流森林計画を策定・樹立するための予備編成(準備)をしていることから、森林の成長や近年の豪雨災害による林相の変化等、山の現況を把握するため、管内中を歩き回り調査しています。



角間溪谷南の岩峰、達磨山

令和二年度から樹木採取権制度がスタートし、全国十箇所の国有林に樹木採取区の指定がされました。中部局においては、当事務所管内の傍陽山国有林、約二七四ヘクタールが指定され、樹木採取権者が最大十年間にわたり樹木の伐採を行えるようになりました。公募により



植付前のコンテナ苗確認 (筆者左)

樹木採取権者を選定し、本年九月からスタートしましたので、関係者一丸となって木材の長期安定供給をしていくこととしています。

■未来の担い手へのメッセージ

林業の盛んな地域から自然景観の優れた地域まで、変化に富んだ山を相手にする職場です。歴史を重ねて形成されてきた山を後世につなぎ、未来の森林を育ててみたい方は、国有林に就職してみたいかがでしょうか。

〈シリーズ「私の森語り」〉

シリーズ

「私の森語り」
もりかた

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「地域連携の拠点を目指して」



ふるさと体験 木曾おもちゃ美術館
ふるはた ひるし
古畑 洋志

■自己紹介

ふるさと体験 木曾おもちゃ美術館のカフェ部門でそば打ちをしています。

木曾おもちゃ美術館への改築前の「ふるさと体験館きそふくしま」には、約十年前から勤務しています。

カフェでは、できるだけ地産地消を目指し、地元で採れた玄そばを自家製粉してそば打ちし、五平餅の米も地元産、タレに使うエゴマも自分で栽培し、地元食材を使うことに力を入れています。

■活動内容

昭和三年に地元の方々からの木材提供によって建てられ、平成九年に廃校となるまでの間、地域の方々から親しまれてきた黒川小学校。

その後、なんとか校舎だけでも残したいという地元の熱意で大切に手入れされ二十年以上、大切にしてきたふるさと体験館きそふくしまに「新しい木育」という視点を取り入れた、「ふるさと体験 木曾おもちゃ美術館」として生まれ変わりました。

木曾おもちゃ美術館は「おもちゃのやかた」「たいけんのやかた」「であいのやかた」の三つのエ



町内外から集まってくれた方々に手伝っていただいた民具の移動作業



木曾おもちゃ美術館を支えてくださるおもちゃ学芸員さんと運営スタッフの出発式

リアにて構成され、メインとなるのは、旧体育館を活用した「おもちゃのやかた」です。

体育館の高さを活かして二階構造となった空間には、木曾ヒノキの柱が並び、一階には、木曾路の風景を思い起こさせる「おもちゃの小屋」が並び、積み木やパズルなど、木のおもちゃの遊びが待っています。赤ちゃん専用の部屋もあり、二階ではお店屋さんごっこも楽しめます。

■メッセージ

多世代交流ミュージアムとして新たなスタートをしていくのですが、以前から観光業でよく言われている、点と点から線と線へ、さらには面へという話があります。

観光業だけではなく、人と人の関係性も、点と点から広がっていく。その橋渡しのような施設になれればと思います。



自分が打ったそばです。「であいのやかた」にあるカフェでのお食事もお楽しみいただきたいです。

○連絡先

ふるさと体験 木曾おもちゃ美術館
〒三九七-〇〇〇二
長野県木曾郡木曾町新開六九五九
電話・〇二六四-二七-〇一一
FAX・〇二六四-二七-〇一二
<https://kiso-toyomuseum.com>



固有種溢れる豊かな高山植物群落

設定目的

八ヶ岳連峰の硫黄岳から赤岳に至る稜線部には、ヤツガタケキバナシヤクナゲやヤツガタケキンポウゲなど八ヶ岳固有種を含む豊かな高山植物群落広がっています。特に稜線の東側斜面は「八ヶ岳キバナシヤクナゲ自生地」として国の天然記念物に指定されています。これらの貴重な高山植物群落と八ヶ岳一帯の森林生態系の保護・管理を一体的に行っています。

地況・林況

「八ヶ岳」とは特定の一山を指して呼ぶ名前ではなく、山梨・長野両県境にまたがる山々の総称です。

八ヶ岳は独立した連峰であるため、この地域でのみ進化した草本や樹木が見られます。草本ではヤツガタケキンポウゲ、ヤツガタケキスミレ、ヤツガタケタンポポ、ヤツタカネアザミ、ヤツガタケシノブなど、樹木ではヤツガタケキバナシヤクナゲ、ヤツガタケトウヒなど、八ヶ岳の名が付くものが数多く生育しています。

また、ベニヒカゲやヤツタカネなど希少な高山蝶も生息しています。

シリーズ

中部の保護林(第19回)

ヤツガタケキンポウゲ

所在地
長野県南佐久郡南牧村、茅野市



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

やつがたけ
八ヶ岳

生物群集保護林

赤岳から望む阿弥陀岳とミヤマダイコンソウ

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第19回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともに紹介します。

「苗畑」

植樹するための苗木は、古くは森林で自然に育った稚樹を掘り取って目的の場所に植える「山引苗」が主でした。明治時代に入ると苗木を育てる専用の畑である「苗畑」(戦前までは「苗圃」)が幾つも作られることになりました。

「上写真」大正時代頃、七宗山菅ヶ谷苗圃
(現在の岐阜森林管理署管内)



「下写真」昭和初期頃、読書村大原苗圃
(現在の木曽森林管理署南木曽支署管内)

例えば木曽地方では伝統的な苗木を育てる手法が確立しておらず、明治二十年代に愛知県から指導者を招いたと記録されています。



昭和三十二年の苗畑での除草作業
(現在の南信森林管理署管内)

苗畑では多くの人が働き、幾つもの作業行程がありました。特に除草作業が労力の半分以上を占める時代もありました。これは除草剤が使用されるにつれて省力化されていきました。この他にも人力や牛により畑を耕す作業や苗木を掘り取る作業がトラクター等の導入により省力化されていきました。

明治時代以降スギやヒノキ、サワラといった苗木が主に生産されてきましたが、戦後はカラマツの生産が多くなりました。しかし昭和四十年代後半ぐらゐから苗木の需要は減少していき、国有林では民間の苗畑で生産された苗木を購入して植える体制に移行していきました。



昭和30年頃、トラクターによる耕耘
(現在の東濃森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



国有林モニターのご紹介



たかやま しげき
高山 茂樹
(富山県)

◇自己PR(趣味や特技など)

長年、水族館に勤務し、富山湾と富山県の生物を飼育していました。そのため、生き物大好き人間です。夏休み期間は、子どもたちの自由研究のお手伝いをしています。

また、トレッキング中に撮った植物や動物の写真をフェイスブックやインスタグラムに投稿しています。自宅では、ノルウェージャンフォレストキャットと日本スピッツを飼っています。

時々、苔リウム作りのワークショップの講師をしています。

◇国有林モニターに

応募いただいた理由

私の住む魚津市は、高山に降った

雨が、沿岸の海底で湧き出しており、森の栄養分が富山湾に運ばれ、魚を育んでいます。

近年は漁業者による広葉樹の植林が行われるようになり、森林の重要性が認識されるようになったと思います。

一方で、カシノナガキクイムシやクマ、ニホンカモシカ、ニホンザル、イノシシ等の被害など、森の様子も変化してきていると思います。

自然環境が変化しつつある中、森の状況について、これまで歩く機会があった北アルプスや飛騨の森だけでなく、中部森林管理局の管轄の森についても、実際に見て、勉強したいと思ひ応募しました。

◇国有林に期待すること

森を守ることは、災害を防ぐ上で重要ですので、しっかりと管理してほしいと思います。

また、自然を楽しめる環境整備も重要だと思います。

スギの原木が安く、植林したスギを伐採できないとの話を聞きました。林業が成り立つ道を探ってください。

無花粉スギの普及も期待しています。

赤沼田の天保林



江戸時代の天保年間にヒノキなどが植栽され、現在、樹齢一八〇年を超える赤沼田の天保林。

岐阜県下呂市に所在し、「森の巨人たち百選」に選ばれた「天保の大ヒノキ」などの巨木の勇壮な姿を見ながら、森林の歴史を感じる事ができます。

中部森林管理局管内の国有林では最も古い、貴重なヒノキの人工林ですので、機会がありましたらお立ち寄りください。



編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

10月25日(火) 国有林モニターの皆様と赤沢自然休養林などの現地視察に行ってまいりました。(詳しくは、来月号をお楽しみに!)

数時間という短い時間でしたが、見て、聞いて、触れて、感じていただくことがあったと思いますし、私も参加者の皆様方から学び、気付かせていただくことがありました。

全員の方とお話しすることはできませんでしたが、今後とも国有林野の魅力や楽しみ方、期待されることなど、様々なご意見や感想をお寄せいただき、広報「中部の森林」でもご紹介させていただきたいので、よろしくお願ひいたします。

皆様とともに訪れた日本美しの森にも選ばれている赤沢自然休養林は、秋の装いがとても素敵でした。次回は、プライベートで別の季節に好きなだけのんびりと過ごしたいです(*^▽^*) 皆様もぜひ!

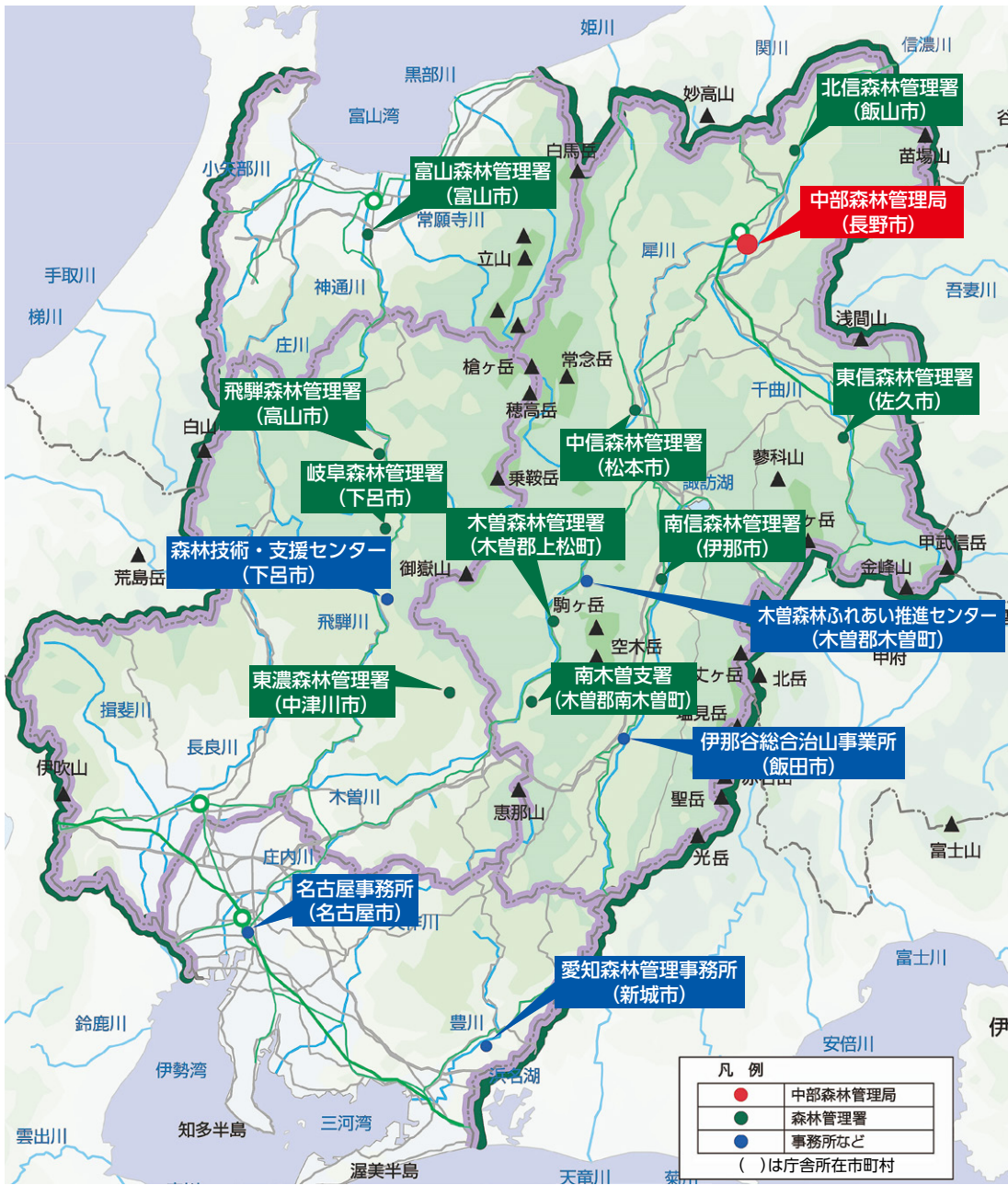


日本美しの森への入場ゲートは、左のQRコードを読み込んでください。

デジタルテーマ



80. 雪 南砺市利賀村 (富山署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局ホームページ



広報「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中区熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	FAX 052-683-9269
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	FAX 076-424-4934
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	FAX 0269-62-4144
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	FAX 0263-47-4754
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	FAX 0267-82-6959
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	FAX 0265-72-7774
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	FAX 0264-52-2582
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	FAX 0264-57-2686
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	FAX 0577-34-8932
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	FAX 0576-62-2503
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	FAX 0573-82-2109
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	FAX 0536-23-2254
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	FAX 0576-25-2420
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島1250-7	TEL 0264-22-2122	FAX 0264-21-3151
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	FAX 0265-22-0149

発行：林野庁 中部森林管理局
 編集：総務課 広報
 〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
 電話：026-236-2531
 FAX：026-236-2733
<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
 (毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
 登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>
 または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。